

X 研究のまとめ

研究主題「未来を拓く子どもの育成」の下、4年次は副主題を「『見方・考え方』を働かせて協働的に学ぶ学習指導の在り方」とし、研究を進めてきた。その結果、以下のことが明らかとなった。

- 全教科等が、「見方・考え方」の背景にある教科等を学ぶ本質的意義を捉え、これを踏まえて問題解決的な学習の過程を再考した。その結果、本校児童の課題であった「社会や生活にある問題に対して育んできた資質・能力を生かす」という観点から、各教科等の問題解決的な学習の過程が改善され、各教科等が目指す資質・能力の育成に一層つながるものとなった。
- 全教科等が、問題解決的な学習の各過程における「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ子どもの姿を捉え、その姿を生み出す学習指導の工夫をし、実践した。その結果、各教科等が行った課題設定の工夫や、道具や方法、活動形態、場などの学習指導の工夫（図1）は、「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ子どもの姿を生み出す上で有効な一要因であることが明らかとなった。
- 問題解決的な学習の各過程で想定した姿が表出された子どもからは、教科等の垣根を超えてこれまでの学びを生かし、自ら他者と関わりながらよりよい解決を求めて問題解決に取り組む姿が見られた。この姿は、本研究が目指す子ども像に迫るものである（図2）。その要因として、各教科等が「見方・考え方」を働かせて学ぶ姿と、協働的に学ぶ姿の2つの側面から学びの姿を想定し、「逆向き設計」論的に単元・題材等を構想したことが大きく影響したと考える。この単元・題材等の構想方法や学習指導の工夫（図1）は、学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」を実現する学習指導の在り方の一つといえる。
- 現在、小学校プログラミング教育の本格実施が始まり、教育の情報化は飛躍的に進んできている。予測困難な時代の到来に対応できる「未来を拓く子ども」の育成に向け、今後は、学習の基盤となる情報活用能力の育成も視野に入れ、教科横断的な視点からの教育課程の再編とICT機器を効果的に活用した教科等教育をより一層進める必要がある。



図1 各教科等における学習指導の工夫



図2 目指す子ども像と各教科等が育成を目指す資質・能力

【参考文献】

- ・文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社，2017年。
- ・田村学『深い学び』，東洋館出版社，2018年。
- ・澤井陽介・加藤寿朗『見方・考え方[社会科編]』，東洋館出版社，2017年。
- ・奈須正裕『「資質・能力」と学びのメカニズム』，東洋館出版社，2017年。
- ・国立教育政策研究所『資質・能力の包括的育成に向けた評価の在り方の研究』，2017年3月。
- ・G. ウィギンズ，J. マクタイ著，西岡加名恵訳『理解をもたらすカリキュラムデザイン』，日本標準，2012年。
- ・西岡加名恵・石井英真【編著】『教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価「見方・考え方」をどう育てるか』，日本標準，2019年。
- ・西岡加名恵・石井英真編著『Q&Aでよくわかる！「見方・考え方」を育てるパフォーマンス評価』，明治図書，2018年。
- ・石井英真『今求められる学力と学びとは—コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影—』，日本標準，2015年。
- ・群馬県教育委員会『はばたく群馬の指導プランⅡ』，2019年8月。
- ・文部科学省「初等教育資料」No.984，東洋館出版社，2019年9月。